

土木学会 昭和 45 年度役員紹介

会 長

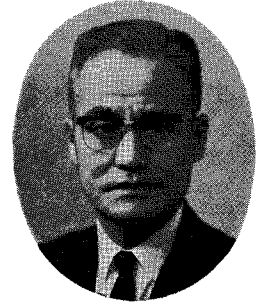


大石重成  
鉄建建設(株)取締役社長

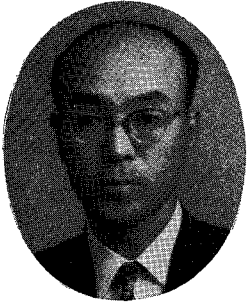
副会長



河上房義  
東北大学教授



米谷栄二  
京都大学教授



斎藤義治  
日本道路公団理事



長浜正雄  
日本国有鉄道常務理事

専務理事



羽田 巖

理 事



浅間 隆  
建設省東北地方建設局企画室長



井上 孝  
東京大学教授



石上立夫  
日本国土開発(株)取締役副社長



岩垣雄一  
京都大学教授



内田一郎  
九州大学教授



尾崎 晃  
北海道大学教授



岡田 清  
京都大学教授



吉川秀夫  
東京工業大学教授



後藤幸正  
東北大学教授



後藤明治  
首都高速道路公団参与



境 隆雄  
室蘭工業大学教授



末沢不二雄  
東京都建設局技監



鈴木 籟  
通商産業省公益事業  
局水力課長



鈴木秀昭  
日本国有鉄道建設局  
計画課長



田中 茂  
神戸大学 教授



長谷川盛一  
九州電力(株)理事土木  
部長



平岡 治郎  
日本鉄道建設公団計  
画部計画課長



星 治雄  
徳島大学 教授



牧野文雄  
大阪府土木部長



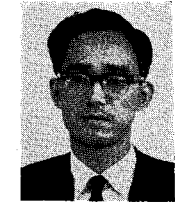
三浦孝雄  
建設省計画局地域計  
画課長



南 俊次  
阪神高速道路公団理  
事



村田清逸  
中国電力(株)島根原子  
力発電建設本部長



毛利正光  
名古屋大学 教授



山本有三  
名古屋土木局長

監 事



川瀬正俊  
(株)熊谷組常務取締役



柳瀬珠郎  
近畿日本鉄道(株)取締役

## 第 56 回通常総 会 挙 行 さ る

昭和 45 年 5 月 29 日、東京都千代田区にある麹町会館で第 56 回土木学会通常総会が挙行された。総会と年次学術講演会などの行事が分離・挙行されるようになってから本年は第 3 回目であるが、前年にもましての多くの参加者を集め盛会であった。

### 写真説明

1. 柳瀬第 57 代会長から土木学会員を受ける後藤尚男(右)、亀田弘行両会員
2. 同、市原 薫 会員
3. 特別講演をする村上永一 会員

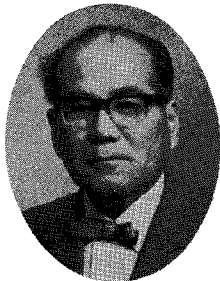


# 土木学会名誉 会員推挙報告

土木学会第 56 回通常総会において、下記 8 名の方々が土木学会名誉会員に推挙されま  
したのでご報告申し上げます。ここに、土木学会名誉会員は 73 名（昭和 45 年 6 月現在）  
をかぞえることになりましたことを、あわせてご報告申し上げます。

（五十音順・敬称略）

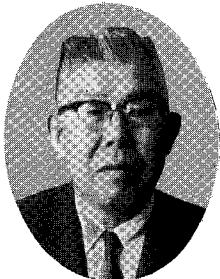
いしだ じろう  
石田 二郎



現 在：(株)中部日本コンサルタント取締役  
生 年 月 日：明治 32 年 10 月 29 日  
大正 13 年：東京帝国大学工学部土木工学科卒業  
昭和 2 年：名古屋鉄道局技師  
昭和 8 年：大阪鉄道局福知山保線事務所長  
昭和 14 年：華北交通工務部改良課長  
昭和 19 年：石家荘鉄道局長  
昭和 23 年：名古屋市交通局高速度鉄道調査部長  
昭和 26 年：名古屋市交通局長  
昭和 35 年：名古屋遊覧バス(株)副社長  
昭和 40 年：(株)中部日本コンサルタント取締役

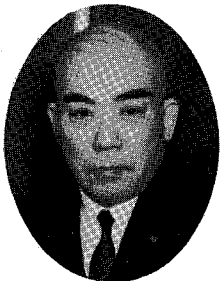
昭和 26 年から 31 年：土木学会中部支部商議員  
昭和 28 年：土木学会中部支部長

いせき まさお  
井 関 正 雄



現 在：(株)熊谷組専務取締役  
生 年 月 日：明治 32 年 10 月 27 日  
大正 12 年：東京帝国大学工学部土木工学科卒業  
大正 14 年：横浜市技師  
昭和 4 年：静岡県土木技師兼道路技師  
昭和 10 年：香川県土木課長  
昭和 12 年：栃木県土木課長  
昭和 14 年：内務省土木局  
昭和 18 年：逓信省航空局第一部建設課長  
昭和 20 年：福島県土木部長  
昭和 27 年：(株)熊谷組取締役  
昭和 39 年 (株)熊谷組専務取締役  
昭和 15 年から 16 年：土木学会常議員  
昭和 21 年から 25 年：土木学会商議員  
昭和 40 年から 41 年：土木学会監事

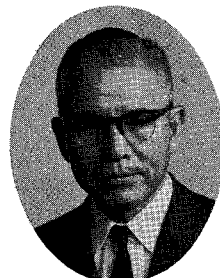
うら がみ もり と  
浦 上 衛 門



現 在：大阪地下街(株)取締役社長  
生 年 月 日：明治 32 年 6 月 16 日  
大正 14 年：京都帝国大学工学部土木工学科卒業  
昭和 4 年：大阪市技師  
昭和 15 年：大阪市土木部道路建設課長  
昭和 22 年：大阪市土木局長  
昭和 30 年：大阪市土木局長退任  
昭和 31 年：大阪市地下街(株)専務取締役  
昭和 39 年：大阪市地下街(株)取締役社長

昭和 26 年から 30 年：土木学会関西支部幹事長  
昭和 31 年：土木学会関西支部長

た な か し げ み  
田 中 茂 美



現 在：興和コンクリート(株)取締役社長  
生 年 月 日：明治 36 年 3 月 7 日  
大正 15 年：九州帝国大学工学部土木科卒業  
昭和 23 年：運輸省鉄道総局施設局長  
昭和 24 年：日本国有鉄道理事  
昭和 24 年：日本国有鉄道技師長  
昭和 27 年：極東鋼弦コンクリート振興(株)取締役社長  
昭和 30 年：興和化成(株)取締役社長  
昭和 33 年：興和コンクリート(株)取締役社長

昭和 23 から 24 年：土木学会副会長  
昭和 34 年：土木学会会長

とう やま みち ぞう  
當 山 道 三

現 在：日本大学名誉教授  
生 年 月 日：明治 32 年 12 月 23 日  
大正 14 年：東京帝国大学工学部土木工学科卒業  
昭和 4 年：日本大学専門部工科教授  
昭和 18 年：台北帝国大学教授  
昭和 19 年：台湾總督府民政官  
昭和 21 年：中華民國国立台湾大学工学院教授  
昭和 22 年：日本大学理工学部教授  
昭和 28 年：日本大学短大工科学監  
昭和 34 年：日本大学短大工科大長  
昭和 37 年：日本大学理工学部次長  
昭和 42 年：日本大学短大工科大長  
昭和 44 年：日本大学名誉教授  
昭和 17 から 18 年：土木学会常議員  
昭和 39 から 41 年：土木学会関東支部長

まつ もと きん ぎ  
松 本 金 吾

現 在：㈱中部復建事務所取締役社長  
名古屋アサノコンクリート㈱会長  
生 年 月 日：明治 31 年 7 月 20 日  
大正 14 年：京都帝国大学工学部土木工学科卒業  
昭和 5 年：大阪市技師  
昭和 13 年：名古屋市土木部工務課長  
昭和 20 年：名古屋市施設局長  
昭和 23 年：名古屋市復興局長  
昭和 28 年：名古屋市建設局長  
昭和 33 年：名古屋区画整理組合聯合会副会長  
昭和 36 年：全国土地区画整理協会聯合会副会長  
昭和 42 年：栄地下センター㈱代表取締役副社長  
昭和 43 年：㈱中部復建事務所取締役社長  
昭和 22 から 27 年：土木学会中部支部商議員  
昭和 28 年：土木学会中部支部長

み いけ しず ろう  
三 池 鎮 浪

現 在：兵庫県都市計画地方審議会委員  
生 年 月 日：明治 32 年 6 月 28 日  
大正 14 年：京都帝国大学工学部土木工学科卒業  
昭和 3 年：内務技師  
昭和 7 年：北川改修事務所主任  
昭和 14 年：岐阜国道改良事務所長  
昭和 18 年：内務省名古屋土木出張所工務部長  
昭和 21 年：富山県土木部長  
昭和 24 年：兵庫県土木部長  
昭和 29 年：㈱鴻池組取締役  
昭和 39 年：三和土木㈱取締役会長  
昭和 44 年：兵庫県都市計画地方審議会委員  
昭和 25 から 28 年：土木学会常議員

よね だ まさ ふみ  
米 田 正 文

現 在：参議院議員  
生 年 月 日：明治 37 年 8 月 14 日  
昭和 3 年：九州帝国大学工学部土木科卒業  
昭和 7 年：内務技師  
昭和 8 年：満州園圃道局技正  
昭和 19 年：奉天省交通庁長  
昭和 23 年：建設院水政局治水課長  
昭和 27 年：建設省河川局長  
昭和 31 年：建設技監  
昭和 33 年：建設事務次官  
昭和 34 年：参議院議員  
昭和 31 から 32 年：土木学会副会長  
昭和 33 年：土木学会会長

# 明日の国土を築く力 <高校土木教育白書>

土木学会土木教育白書編集小委員会編

A5・308

700円(〒80円)

## 目 次

### 論 説

問題提起 若い土木技術者に期待する 工業高校卒業生に望むこと

#### 1. 国土を豊かにする

1.1 今までの国土開発のあゆみ 1.2 豊かな国土とは 1.3 国土の条件 1.4 豊かな国土と土木技術 1.5 国土開発に挑んだ土木家

#### 2. 高校卒土木技術者の活躍

2.1 アンケート調査の概要 2.2 調査の方法 2.3 卒業後の進路 2.4 中堅土木技術者の活躍 2.5 仕事と生活 2.6 卒業生から高校土木教育に対する要望

#### 3. 高校における土木教育

3.1 学校調査の概要 3.2 土木科設置校の変せん 3.3 教育課程 3.4 施設設備と経営 3.5 職員 3.6 就職・進学 3.7 在学生の状況 3.8 定時制教育 3.9 私学教育

#### 4. 職場における卒業生の活躍

4.1 官公庁における高校卒土木技術者の活躍 4.2 企業における高校卒土木技術者の活躍

#### 5. これからの高校土木教育

5.1 工業教育の目的 5.2 教育課程 5.3 教育の現代化 5.4 進路指導

#### 6. 高校土木教育の歩み

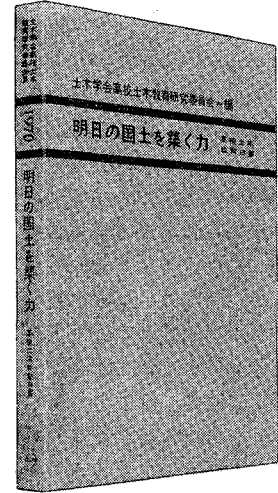
6.1 土木教育のはじまり 6.2 土木教育の成長 6.3 施設設備の変せん 6.4 教育内容の変せん

#### 7. これからの土木技術の発展と建設業

付録1 私の歩んできた道

付録2 座談会—これからの高校土木教育に何を期待するか—

付録3 統計



## 内 容 紹 介

土木学会に高校土木教育研究委員会が設置されたのは昭和36年である。以来、研究会、講演会、実験実習指導書類の発刊など意欲的な活動を行ってきた。また昭和41年、工業高校における土木教育の状況や高校卒土木技術者の実態を調査し、潜在する問題を把握して、今後の高校土木教育のあり方を考えてゆく際の指針となり、同時に、土木技術者が国土建設の中で果している役割や実態を平易にのべ、一般の人々にも土木教育および土木技術者の正しい姿を理解できるような冊子を編集する企画をもった。

以来約4年にわたる調査、集計、検討、執筆などの作業の結果、今回発刊するに至ったのが本書である。

本書は、132の工業高校を対象にしたアンケート調査をはじめ卒業生1,433名、官公庁、企業を対象に広範な調査を行ない、これを分析整理したものを中心にまとめたがさらに大局的な立場から土木教育に対する学会、企業そして高校教育に長く従事されてこられた先輩諸氏の論説、卒業生各位からの貴重な体験談、土木工事の現場で活躍されている方々をまじえて教育現場の幹事が語り合った座談会、そして諸統計なども加えて、内容の豊かなものにする事ができたと思っている。

本書の本文は目次のとおり7つの章より成っており、わかりやすくコンパクトな編集を心がけた。

## 1. 国土を豊かにする

土木技術とは何か？、今までの国土開発の歩みは？、わが国土の条件とは？そして、より豊かな国土を築く上での土木技術の重要性は？などを一般にもわかり易いよう解説し、土木工事の具体例をあげて土木家の実績を紹介した。

## 2. 高校卒土木技術者の活躍

毎年社会に巣立つ10,000名近い高校卒土木技術者が、どのような地方で、どのような部門で、どのような業種に従事しているか、従来まったく調査のどこかなかった実態をある程度解明した。その仕事の内容、待遇、役割、使命感など、現場で働く技術者のいつわらざる声をまとめている。

## 3. 高校における土木教育

学校における教育は、生徒・職員などの人的構成と施設設備の物的構成の相互関係によって成立し、いずれに不調和が生じても教育の効果を十分にあげることができない。本章では、昭和42年度現在における施設設備、経常費、職員関係と教育課程、進路指導、さらに定時制教育、私学教育などの主として学校の実情について調査したものの報告である。

学校間、地域間のアンバランス是正を訴える声をはじめ、不満な点、問題点などが数多く指摘されている。教育に携わる者、卒業生を求める者、学校の運営を行なう者、ともに「良い環境での良い教育」に積極的に取りくむために、従来の教育形態の観念だけにとらわれず、たえず流動し発展する社会に、いかに対応してゆくか、を考えるべきであるとしている。

## 4. 職場における卒業生の活躍

第2章が、卒業生対象のアンケート調査であったことにに対し、本章は官公庁、企業が調査対象となっており、官公庁や企業が高校卒土木技術者をどのように働かせ、またその活躍の状況はどうか、などを中心に述べ、あわせて、求人側からの高校土木教育に対する要望を記述した。それぞれの場における採用状況、職務の内容、特色および共通する問題を知るうえで参考となろう。

## 5. これからの高校土木教育

技術革新の時代といわれ、土木技術界もまた例外

ではなく、国の長期計画もまた着々と軌道にのりつつある。これらの計画達成のために、常に新しい技術の研究開発が進められる。しかし、土木技術の発展とともに偉大な土木工事を完成させた多くの土木技術者の生活、またそれらを包含した建設業の形態も、近代化への積極的な努力が必要であり、そして建設産業を若い人たちにとって魅力のあるものになければならない。

最近、若年労働力の不足、工業高校における生徒の質の低下などが大きな問題となっているが、学会はじめ関係者が力をあわせ、土木事業の正しい姿をPRすることによって、優秀な人材を集め、育てる必要がある。また、教育の場においても同じく教育内容、教育方針など、多くの面に近代化への転換が迫られている。

本章では以上の点をふまえ、今後の土木教育をさぐる一つの手がかりとして、学校、卒業生、官公庁、企業の各方面について行なった調査をもとに、現状を分析し問題をさぐっている。また、企業から学校に対する要望として、技術教育の内容と生徒の資質に対するものがあり、卒業生から企業に対するものとして、職場の環境、仕事の内容、労働条件についての意見が述べられ、学校に対しては、在学中受けてきた教育の効果と要望が述べられている。

## 6. 高校土木教育の歩み

高校土木教育のおいたち、および成長の過程を工業教育の変せんにそってふりかえるとともに、施設設備と教育過程を中心とした土木教育の内容のうづりかわりについて述べている。

## 7. これからの土木技術の発展と建設業

これからの土木工事の分野は従来のものに加えてエネルギー施設、都市再開発、水の高度利用、海洋開発など新たな分野が開け、物理、化学、電気、機械、電子工学など、他の部門との共同開発がますます必要となってゆく。

これからの土木技術の発展がどうあるべきか、また、建設業が将来進んでいくべきグラウンドとしての土木市場を予測し、前途有為の若き土木技術者、中学や高校の教師に貴重な示唆を与えている。

### とくに読んでいただきたい方

- 生徒の進路指導にあたられる中学校、高等学校の先生方および産業教育関係者
- 実社会に巣立つ生徒および父兄の方々
- 全国各地に働く高卒土木技術者の方々
- 官公庁および企業内の人事および教育担当者
- 官公庁および建設関連産業の指導的地位にあるの方々

## 内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理して下さい。

### 関門橋架設工事／村上永一

土木学会誌第 55 巻第 7 号, pp. 2~9, 昭和 45 年 7 月 (July 1970)

本文は、昭和 44 年度土木学会通常総会において実施された特別講演をとりまとめたものである。古くから関門海峡に橋を架けようという計画があったことから書きおこし、今般着工の運びとなった関門橋の諸元、耐震性、諸実験、形式の選定その他にふれ、昭和 48 年夏完成を目標とする本工事の内容を伝えている。本四架橋も実現への第一歩をふみ出した今日、注目すべき論文である。

### 飯山線高場山トンネルの地すべりによる崩壊／久保村圭助・山田剛二

土木学会誌第 55 巻第 7 号, pp. 58~66, 昭和 45 年 7 月 (July 1970)

昭和 45 年 1 月 22 日午前 1 時 24 分、地すべりにより約半分が崩壊した高場山トンネルの崩壊に至るまでの経過の貴重な報告が本文である。本文は、本トンネルの概要から書きおこし、崩壊に至るまでの経過、崩壊時期の予知、運転規制などの方法、その他について図表を用いてわかりやすく記述されている。

### 座談会・1970 年の近畿一水問題を考える一／土木学会西部支部

土木学会誌第 55 巻第 7 号, pp. 67~73, 昭和 45 年 7 月 (July 1970)

近年、人口の都市への集中および工業用水の需要に伴って、水問題は各所で大きな話題を呼んでいる。本座談会記事は、昭和 45 年 1 月に近畿の水問題を如何ように考えるかということで開催した速記抄録であり、京浜、特に東京の水問題と並んで重要視されるこの地区の問題に対し、琵琶湖の水などを中心話題として語られたものであり、将来の展望にも言及している。

## 土木計画学講習会 テキスト 1

B5・122 800 円 会員特価 700 円(〒70)

#### ■土木計画問題のシステム化

一ネットワークシステムを例にとって一

#### ■調査方法および資料整理

#### ■道路計画の基礎資料

#### ■将来予測の一般論

#### ■港湾の整備計画

#### ■都市用水需要の将来予測

吉川和広  
高橋 裕  
山根 孟  
加藤 晃  
高田陸朗  
首藤和正

## 土木計画学講習会 テキスト 2

B5・152 1200 円 会員特価 1100 円(〒70)

#### ■調査計画法一特に標本調査方法について一

#### ■情報の抽出と予測

#### ■土木計画のための線形計画法

#### ■バイパス計画の実施例

一国道 3 号線福岡バイパスの場合一

#### ■水資源計画の手法

河上省吾  
中村慶一  
吉川和広  
稲見俊明  
佐々木才朗

### ▶新刊発売中◀

## 土木計画学講習会 テキスト 3

B5・130 1200 円 会員特価 1100 円(〒70)

#### ■都市計画の数学的手法

一将来道路交通量推定理論一

#### ■観光計画の手法

#### ■建設工事のための割当て問題

#### ■待ち行列の理論とシュミレーション

#### ■工程管理のためのネットワーク手法

一PERTの実施例を中心として一

#### ■PPBSと公共施設計画

五十嵐日出夫  
鈴木忠義  
吉川和広  
越正毅  
河原畑良弘  
倉島収

# 構造実験指導書 450円(〒70円) 新刊発売中

B5・118 / 折込図2 / データシート36

編集協力者

成岡 昌夫  
小阪 義夫  
川本 眺万  
秋山 伸二  
太田 龍三  
岡田竹二郎  
中城 忠治  
橋本 経吉  
間宮 勲  
森野 安信

1. 電気抵抗線ひずみ計によるひずみの測定 1.1 構造用鋼材の引張試験 1.2 コンクリート供試体の圧縮試験 1.3 金属部材の曲げ試験(片持り) 2. はりの実験 2.1 支点反力の測定 2.2 曲げ応力度の測定 2.3 主応力度の測定 2.4 たわみの測定 2.5 片持りの振動の測定 3. トラスの部材応力の測定 4. 柱の実験 4.1 短柱の実験 5. 鉄筋コンクリート部材の実験 5.1 鉄筋コンクリート短柱の実験 5.2 鉄筋コンクリートばりの実験 6. プレストレストコンクリートばりの実験 7. ラーメンの実験 8. コンクリート部材の非破壊試験 8.1 共振法による動弾性係数の求め方 8.2 超音波法による動弾性係数の求め方 8.3 超音波法によるコンクリート構造物の質的診断 9. 光弾性実験 9.1 光弾性感度の検定 9.2 単純曲げによる応力の測定 9.3 ラーメンにおける応力測定 [参考] 光弾性実験の原理 [付録] 構造実験のための弾性理論模型の抄録について / 構造力学のための弾性理論模型 [付・データシート] 構造用鋼材の引張試験, コンクリートの圧縮試験, 金属部材の曲げ試験, 支点反力の測定, 曲げ応力度の測定, 主応力度の測定, たわみの測定, 片持りの振動の測定, トラスの部材応力の測定, 短柱の実験, 鉄筋コンクリート短柱の実験, 鉄筋コンクリートばりの実験, プレストレストコンクリートばりの実験, ラーメンの実験, 共振法による動弾性係数の求め方, 超音波法によるコンクリート構造物の質的診断, 光弾性感度の検定, 単純曲げによる応力の測定, ラーメンにおける応力測定.

# 測量実習指導書 450円(〒80円) 新刊発売中

新書・238 / 折込図4 / 折込付表9

編集協力者

丸安 隆和  
五百蔵 衆  
長井 敬二  
服部 義孝  
森田 信三  
渡辺 康二

1. 測量にあたっての一般的注意 1.1 測量作業 1.2 器械器具の取扱い 2. 距離測量 2.1 鋼巻尺による距離測量 2.2 精密な距離測量 2.3 結果の整理 3. 角測量 3.1 トランシットのすえつけ 3.2 トランシットの構造および視準 3.3 トランシットの調整 3.4 水平角の測定 3.5 鉛直角の測定 4. トラバース測量 4.1 トラバース測量の外業 4.2 トラバース測量の内業 5. 平板測量 5.1 平板のすえつけ 5.2 基準となる測点の増設 5.3 細部測量 6. 水準測量 6.1 レベルの調整 6.2 直接水準測量 6.3 交互水準測量 6.4 縦断測量 6.5 横断測量 7. 面積・体積 7.1 図形上で直接面積を求める方法 7.2 プラニメーターによる方法 7.3 計算で面積を求める方法 7.4 計算で面積を分割する方法 7.5 両端断面平均法による体積の計算 7.6 点高法 7.7 等高線を利用する方法 8. 三角測量 8.1 三角測量の外業 8.2 三角測量の内業 9. 地形測量 9.1 地形測量 9.2 直接法による等高線の求め方 9.3 スタジア測量による等高線の求め方 10. 路線測量 10.1 平面計画 10.2 縦断計画 10.3 横断計画 10.4 偏角測設法(単心曲線) 11. 写真測量 11.1 実体視 11.2 視差差による比高の測定 11.3 図解射線法 12. 工事測量 12.1 引照ぐい 12.2 盛土のやり方 12.3 切取りのやり方 [付・野帳] 距離測量野帳, 角測量野帳, 方向法測角野帳, 水準測量野帳, スタジア測量野帳 [付・データシート] 基線の補正, 閉合トラバース計算表, 面積計算表, 面積分割表(四辺形), 土積計算表, 四辺形の調整, 有心多角三角網の調整, 三角鎖の調整, 辺長計算.

## 土質実験指導書

340円(〒70円)

## 土木材料実験指

導書 490円(〒70円)

## 水理実験指導書

250円(〒70円)

●学校用教材として一括ご注文の場合は、特別な割引制度もありますので、下記へ直接ご相談ください●



# 会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	7月24日(金) ~25日(土)	第3回土木計画学シンポジウム	土木学会	7号会告5頁参照
	7月28日(火) ~30日(木)		広島市	6号会告12 "
	7月31日(金) ~8月1日(土)	第3回土木計画学シンポジウム (北海道支部共催)	札幌市	7号会告5 "
	7月29日(水) ~8月6日(木)		仙台市	7号会告6 "
	8月20日(木) ~21日(金)	昭和45年度夏期講習会	東京	7号会告2 "
	9月14日(月) ~16日(水)	第6回トンネル工学に関するシンポジウム	同	7号会告7 "
	11月6日(金) ~8日(日)		大阪市	7号会告3 "
	北海道支部	8月21日(金)	見学会	札幌地区
9月18日(金)		見学会	札幌地区	7号会告10 "
10月9日(金)		見学会	札幌地区	7号会告10 "
中部支部	8月21日(金)	技術講座	名古屋市	7号会告10 "
	9月11日(金)	第2回見学会	名古屋市, 外	7号会告11 "
関西支部	8月24日(月) ~25日(火)	講習会 研究発表会	大阪市	7号会告11 "
	8月26日(水)		同	7号会告12 "
中四支部	7月25日(土)	支部総会・特別講演会 学術講演会 見学会	鳥取市	7号会告13 "
	7月26日(日)		同	7号会告13 "
	7月27日(月)		同	7号会告13 "
西部支部	8月21日(金)	夏期講習会 見学会 映画会	雲長	7号会告13 "
	8月23日(土)		雲長	7号会告14 "
	8月20日(木)		雲長	7号会告14 "
	~21日(金)		雲長	7号会告14 "
お知らせ	■土木学会論文報告集へのご投稿について			6号会告2 "
	■第4回国土開発映画コンクール作品募集			7号会告2 "
	■第17回海岸工学講演会締切			7号会告5 "
	■第3回日本地震工学シンポジウム開催案内			7号会告8 "
	■第20回応用力学連合講演会講演募集			7号会告8 "
	■第3回岩の力学国内シンポジウム講演募集			7号会告8 "
	■第7回災害科学総合シンポジウム講演募集			7号会告9 "
	■原子力研究将来計画シンポジウム			7号会告9 "
	■第17回橋梁・構造工学研究発表会論文募集			7号会告10 "
■第14回回材料研究連合講演会			7号会告14 "	

## 映画会開催について

土木学会視聴覚教育委員会では、毎月第2土曜日に映画会を行なっておりますので、多数お誘い合せのうえご観賞下さいますようお願い致します。

### 記

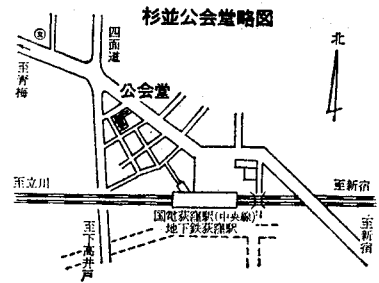
- 場 所：土木図書館講堂（東京都新宿区四谷一丁目 国電・地下鉄四谷駅下車）
- 日 時：毎月第2土曜日 14.00~17.00 8月は8日(土)です。
- 上映映画：「若戸大橋」「私たちの道」  
なお、上映映画は都合により変更することがありますのでご了承下さい。
- 参加費：無料、土木関係以外の方も歓迎致します。
- 共 催：土木学会関東支部

昭和 45 年度夏期講習会—土木工事の積算—

◀ 8 月 20 日 (木) ~ 21 日 (金) ▶

本年度の夏期講習会は土木工事の基本である積算をテーマに下記により実施いたします。斯界発展のため多数の技術者・研究者の方々の参加を希望します。なお前回お知らせした参加費は 3500 円の誤りにつき訂正します。

1. 期 日：1970 年 8 月 20 日 (木) ~ 21 日 (金) の 2 日間
2. 会 場：杉並公会堂 (杉並区上荻 1 の 23 の 15・国鉄、地下鉄、荻窪駅下車徒歩 10 分)
3. 参加費：(テキスト代を含む) 会員 3500 円, 非会員 4000 円
4. テキスト：土木工事の積算
5. テー マ：同 上
6. 題 目、講師および日程：



第 1 日：8 月 20 日 (木)

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 9.45~10.00  | 開 会 挨拶        |
| 10.00~11.00 | (1) 積 算 概 論   |
| 11.00~12.00 | (2) 工事の実績と積算  |
| 12.00~13.00 | 昼 食 休 憩       |
| 13.00~14.00 | (3) 材料および労務単価 |
| 14.00~15.00 | (4) 機械経費と稼働率  |
| 15.00~16.00 | (5) 仮設計画と仮設費  |

土木学会会長 大 石 重 成  
建設省 若 木 三 夫  
道路公団 山 崎 八 郎

建設省 宮 内 章  
建設省 川 崎 迪 一  
鹿島建設 宮 原 春 樹

第 2 日：8 月 21 日 (金)

- |             |                   |
|-------------|-------------------|
| 10.00~11.00 | (6) 間接経費の考え方      |
| 11.00~12.00 | (7) 安全対策費のみかた     |
| 12.00~13.00 | 昼 食 休 憩           |
| 13.00~14.00 | (8) 積算の自由化        |
| 14.00~15.00 | (9) アメリカ合衆国における積算 |
| 15.00~15.15 | 閉 会 挨拶            |

日本国土開発 竹 内 道 郎  
国 鉄 清 水 正 男

建設省 小 寺 隆 夫  
大林組 横 山 義 雄

7. 申 込 方 法：学会誌 6 月号添付の申込書に必要事項をご記入のうえ、参加費を添えて 7 月末日までにお申込み下さい。なお、満員の際はお断りすることがありますのでなるべく早目をお願いします。また、受け付けは着金の順になりますのでご了承ください。
8. 申 込 先：郵便番号 160 番 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会事業課

第 4 回 国土開発映画コンクール作品募集

土木学会は過去 3 回にわたり「国土開発映画コンクール」を開催いたしておりますが、この業績にかんがみて、今年も映画コンクールを開催し、土木技術者および土木以外の人達にも最近の土木技術普及のあゆみを広く周知させ、あすの国土開発に寄与したいと考えておりますので、ふるってご応募下さるよう、また、関係の向きにおすすめ下さいますようお願い申し上げます。

これまでの優秀作品は土木学会「フィルムライブラリー」として活用しており、年間の視聴者は 1 万名以上にのぼっております。今後も今回の優秀作品を含め土木学会はもちろん、一般の活用を推進する予定であります。

コンクール応募要領

1. 内 容：国土開発に関し、主として土木事業の PR および土木技術を中心としたもの
  2. 規 格：16mm フィルム (1968 年 10 月以降完成の作品に限る)
  3. 締 切：1970 年 9 月 30 日
  4. 申 込 先：社団法人 土木学会編集課宛 (申込書は請求して下さい) (東京都新宿区四谷 1 丁目 電話 東京 351-5130)
  5. 審 査：土木学会内 映画審査委員会
  6. 賞：入賞作品約 6 編を選びその内から最優秀賞 1 編、優秀賞 2 編、準優秀賞 3 編を決定し、賞状ならびに賞牌を贈る (ただし該当作品のない場合は変更することがあります)。
  7. 発 表 会：1970 年 11 月 20 日
- 追 記：① 作品は完成次第ご連絡下さい。審査期日は追ってご連絡いたします。② 選定映画審査会におきまして「選定」されたフィルムのうち、応募要領に合致するものにつきましては、コンクール候補作品と致したいと思ひます。コンクール審査過程におきましてフィルムを再提出して頂きますので、よろしくご配慮下さい。

## 土木学会昭和 45 年度全国大会案内

◀ 11 月 6 日 (金) ~ 8 日 (日) ▶

土木学会昭和 45 年度全国大会は、第 25 回年次学術講演会をはじめ、特別講演会、合同部門研究討論会、PR 展示・映画会・懇親会、見学会をつぎの日程で大阪市において開催いたします。

懇親会、見学会、講演概要集購入などの申込方法は、学会誌 8 月号でお知らせします。

1. 特別講演会：昭和 45 年 11 月 6 日 (金)  
9.00~12.00 日本生命中之島研修所  
講演者：土木学会会長、奈良国立文化財研究所 坪井清足、  
作家 小松左京
2. 合同部門研究討論会：昭和 45 年 11 月 6 日 (金) および 8 日 (日) 一般講演終了後 日本生命中之島研修所  
題目 ① 土木工学における不規則現象とその評価  
② 土木工事における騒音振動問題
3. 第 25 回年次学術講演会：  
昭和 45 年 11 月 6 日 (金) 13.00~17.00 } 日本生命中之島研  
" 11 月 7 日 (土) 9.00~17.00 } 修所および大阪科  
" 11 月 8 日 (日) 9.00~17.00 } 学技術センター
4. PR 展示・映画会：  
昭和 45 年 11 月 6 日 (金) } 9.00~17.00  
" 11 月 7 日 (土) } 大阪科学技術センター  
" 11 月 8 日 (日) }
5. 懇親会：昭和 45 年 11 月 7 日 (土)  
18.30~20.00 場所未定
6. 見学会：

① 現場見学会 (講演会開催中 2~3 時間のコースで現地へバス連絡の予定)

第 1 コース 高速道路めぐり (阪神高速道路, 大阪中央環状線, 近畿自動車道, 万博会場, 新御堂筋線);

11 月 6 日 (金) 午後, 11 月 8 日 (日) 午前, 午後の 3 回

第 2 コース 大阪高潮対策事業 (安治川大水門等);

11 月 7 日 (土) 午前, 午後の 2 回

第 3 コース 大阪市高速電気軌道谷町線延長工事 (天満大川地下潜函トンネル工法);

11 月 7 日 (土) 午前, 午後の 2 回

第 4 コース 臨海開発めぐり (南港埋立, 堺東北工業地帯);

11 月 8 日 (日) 午前, 午後の 2 回

第 5 コース 寝屋川流域下水道工事 (門真・守口幹線下水管渠工事);

11 月 8 日 (日) 午前, 午後の 2 回

② 旅行見学会 (講演会終了後 1 日コースのバス旅行)

A コース 美浜原子力発電所 (名神, 161 号線, 敦賀, 三方五湖経由)

昭和 45 年

B コース 防災研究所, 琵琶湖 (天ヶ瀬ダム喜撰山揚水発電所, 南郷洗堰, 琵琶湖大橋)

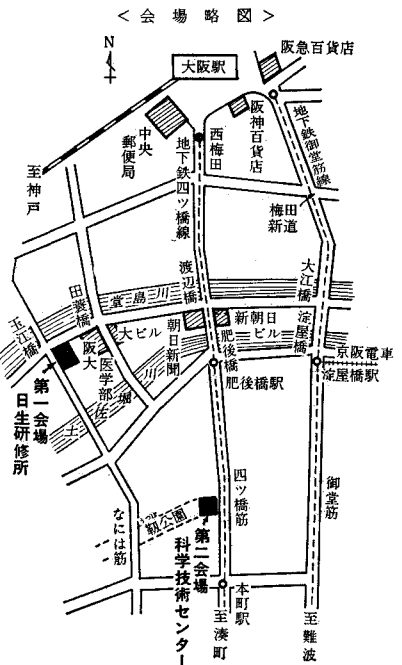
11 月 9 日 (月)

C コース 山陽新幹線, ポートアイランド (神戸トンネル, 須磨土取場, ポートアイランド等)

### ▶ 第 25 回年次学術講演会

土木学会第 25 回年次学術講演会は昭和 45 年度全国大会学術講演会として昭和 45 年 11 月 6 日 (金), 7 日 (土), 8 日 (日) の 3 日間, 大阪市において開催することになりました。

今回は諸般の情勢から、会場は市街地ビルの会議室を使用します。会場は上記のように 2 会場に分れご不便な点があることと存じますがご了承願います。なお講演申込みを行なった方は 1. を参照のうえ期日までに必ず講演概要の原稿提出 (期日 7 月 31 日土木学会本部内全国大会講演概要集係必着) をして下さい。



#### 交通案内

第 1 会場 (日生研究所)

- ・市営バス：国鉄大阪駅前より市バス (53) 船津橋または (特 53) 大阪港行乗車, 玉江橋下車
- ・地下鉄：地下鉄四ツ橋線西梅田駅乗車肥後橋駅下車徒歩 10 分

第 2 会場 (科学技術センター)

- ・地下鉄：地下鉄四ツ橋本町駅下車 徒歩 5 分
- 注 第 1 会場~第 2 会場は徒歩 15 分の距離です。

1. 講演概要原稿

- ① 概要の目的：講演概要は聴講者に内容を徹底させあわせて講演時間を短くし、かつ来聴できない会員に、講演内容を速報するために作成します。
- ② 内 容：講演概要は、一般会員がこれによって十分理解できるよう、研究の考え方と結論をわかりやすく書いて下さい。
- ③ ページ数：原稿の長さは原則として2ページとします。超過する場合は4ページまでとします。4ページを超えるものは受けません。
- ④ 原稿用紙：原稿をそのまま縮写してオフセット印刷としますので、所定の原稿用紙を用いて下さい。原稿用紙および執筆要領は所属支部へ請求して下さい。
- ⑤ 提出期限：7月31日(金)必着のこと。期限までに原稿提出のないものは講演申込みを取消します。
- ⑥ 提出あて先：下記へ直送して下さい。

〒160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会内 全国大会講演概要集係

2. 講演概要集頒布

講演概要集はすべて有料とし、無料交付はしません。学会誌8月号とじ込み予定の購入申込書によってお申込み下さい(申込期限：9月30日の予定 申込先：土木学会関西支部内全国大会講演係、送本10月上旬予定土木学会全国大会講演概要集係より送付します)。

講演者(連名者を除く)には、各自の原稿の別刷30部を贈呈しますが、特別の増刷はいたしません。

講演概要集申込あて先：〒541 大阪市東区船場中央2丁目2番地 船場センタービル 4号館 409号室  
土木学会関西支部内 全国大会講演係

3. 講演申込者へお願い

講演概要原稿提出は、必ず期限を守って下さい。期限後到着のものは、プログラム編成、概要集の編集と印刷の作業進行上全く余裕がありませんので受理いたしません。

講演概要原稿必着日 7月31日(金) 提出先 土木学会本部内 全国大会講演概要集係

講演原稿、概要集購入関係日程一覧

原稿用紙、執筆要領		請求先	所属各支部
講演原稿	提出期限 7月31日(金)	提出先	土木学会本部内全国大会講演概要集係
概要集購入	申込期限 9月30日(水)	申込先	土木学会関西支部内全国大会講演会係
概要集送本	予定日 10月上旬	送付者	土木学会本部内全国大会講演概要集係

宿泊について(予告)

全国大会期間中の宿泊については、日本生命中之島研修所宿泊室を下記の数に限り申込みを受付ける予定です。その他の宿泊の取扱いは一切いたしませんからご了承下さい。

宿泊申込みは学会誌8月号綴込み予定の全国大会申込書によりお申し込み下さい。(宿泊料前納)

日本生命中之島研修所宿泊室概要

宿泊料 1泊1200円(個室)、朝食代200円の予定 計1泊につき1400円の見込み  
昼食、夕食は各自でお願いします。

サービス料不要

一般の旅館等とはことなり、かなりの制限がありますので、規則の厳守をお願いします。

制限のあらし

門限午後10時、無断外泊厳禁、セルフサービス、洗面具持参

部屋内での食事、飲物の禁止、ベッド内でのタバコ厳禁等々

宿泊数(申込先着順)

第1日(11月5日)30名/第2日(11月6日)135名/第3日(11月7日)135名/第4日(11月8日)10名

## 第17回 海岸工学講演会

第17回海岸工学講演会を下記により開催致します。講演申込みを行ない論文の採用の通知のあった方は、期日までに必ず原稿を御提出下さい。

1. 開催時期：1970年11月下旬
2. 場 所：新潟市
3. 講演原稿締切：1970年8月15日(土)
4. 講演原稿送付先および連絡先：  
〒160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会海岸工学委員会 電(03)351-5138(代表)

## 第3回土木計画学講習会

◀ 東京会場 7月24日(金)～ 25日(土) ▶  
◀ 札幌会場 7月31日(金)～8月1日(土) ▶

土木技術者が、産業基盤整備、生活環境整備、防災などの土木事業を通して社会の繁栄と福祉の増進に寄与するためには、必然的に計画の合理性を高めることが要求されます。最近における土木事業は、質・量ともに著しく増大しておりますが、土木事業の計画部門に何らかの形で携さわる技術者の数もまた非常に多くなってきています。その結果、ある程度体系づけられた手法が提供される場が求められるようになって参りました。

この間の事情に鑑み、土木計画の手法を中心に、基礎的な理論と実際問題への応用を第一線の技術者に学んでいたことを主なねらいとして、過去2回にわたって土木計画学講習会を開催致しましたが、今般引き続き「計画と管理の手法」を主題とする第3回目の講習会を開催することにしました。

関係各位の多数のご参加をおすすめします。

### 記

1. 標 題：「計画と管理の手法」
2. 主 催：土木学会土木計画学研究委員会・土木学会北海道支部(共催)
3. 期 日：東京会場—1970年7月24日(金)～ 25日(土)  
札幌会場—1970年7月31日(金)～8月1日(土)
4. 会 場：東京会場—土木学会講堂(東京都新宿区四谷1丁目、電話(03)351-5138番・国電、地下鉄四谷駅隣)  
札幌会場—建設会館9階大会議室(札幌市北4条西3丁目、電話(0122)26-6181番・札幌駅前五番館裏手東南角)
5. 参加費：会員 2500円、会員外 3000円(ただし、1名当りの参加費・テキスト代を含む)
6. プログラム：
 

<第1日>							
9.50～10.00	開会あいさつ						
10.00～11.30	都市計画の数学的手法	北	大	五	十	嵐	日 出 夫
12.30～14.30	観光計画の手法	東	工	大	鈴	木	忠 義
14.40～16.40	建設工事のための割当て問題	京	大	吉	川	和	広
<第2日>							
9.00～11.30	待ち行列およびシミュレーション	東	大	生	研	越	正 毅
12.30～14.30	工程管理のためのネットワーク手法	奥	村	組	河	原	畑 良 弘
14.40～16.40	公共事業とPPBS	経	企	庁	倉	島	収
16.40～16.50	閉会あいさつ						
7. 申込み方法：参加希望者は、① 氏名、② 所属部課名、③ 連絡先郵便番号住所、④ 会員区分、⑤ 連絡事項を明記のうえ両会場とも会費同封のうえ現金書留便で土木学会事務局編集課宛(〒160 東京都新宿区四谷1丁目) お申込み下さい。
8. 申込締切日および定員：
 

東京会場—1970年7月15日(水) 着便まで、定員165名・東京会場は締切りました。

札幌会場—1970年7月25日(土) 着便まで、定員150名

ただし、当日受付は原則として認めません。
9. 連絡先：土木学会編集課 〒160 東京都新宿区四谷1丁目 電話 03-351-5130)

第6回水工学に関する夏期研修会

◀ 7月29日(水)~8月6日(木) ▶

第6回水工学に関する夏期研修会を下記により開催いたしますので、ふるってご参加下さいませようご案内いたします。

1. 開催期日：1970年7月29日(水)~8月6日(木)
2. 会 場：東北大学工学部土木工学科大講義室(宮城県仙台市荒巻字青葉・電話 0222-22-1800)
3. 対 象：大学終了程度の方
4. 題目・講師および日程(題目は多少変更することがあります)

A. 海岸・港湾コース：7月29日(水)~8月1日(土)

7月29日(水) 9.00~9.30	受 付			
9.30~12.30	波浪の数値計算	運輸省港湾技術研究所	合 田 良 史	
13.30~16.30	波浪の統計解析への応用	東京工業大学助教授	日 野 幹 雄	
7月30日(木) 9.00~12.00	湾内拡散	中央大学助教授	首 藤 伸 夫	
13.00~16.00	津 波	東北大学教授	岩 崎 敏 夫	
7月31日(金) 9.00~12.00	漂砂特論	東京大学教授	堀 川 清 司	
13.00~15.00	[特別講演] 海洋開発	東京大学名誉教授	木 間 仁 仁	
15.00~17.00	波浪観測	北海道開発局土木試験所	村 木 義 男	
8月1日(土) 9.00~12.00	越波と根固め	建設省土木研究所	富 永 正 照	
13.00~16.00	冷却水・取排水に関する技術的問題	電力中央研究所技術第二研究所	千 秋 信 一	
16.00~16.30	終 了 式			

B. ダム・河川コース：8月3日(月)~6日(木)

8月3日(月) 9.00~9.30	受 付			
9.30~12.30	異常降雨について	東北大学助教授	大 西 外 史	
13.30~16.30	水文学における確率過程	北海道大学教授	山 岡 勲 人	
8月4日(火) 9.00~12.00	水理構造に作用する流体力	京都大学教授	岩 佐 善 明	
13.00~15.00	キャピテーション その1	東北大学教授	村 井 等 等	
15.00~17.00	キャピテーション その2	東北大学助教授	大 場 利 三 郎	
8月5日(水) 9.00~12.00	掃流砂礫の流送機構	京都大学教授	土 屋 義 人	
13.00~15.00	[特別講演] 蛇行論	中央大学教授	林 泰 造	
15.00~17.00	空気混入流	東北大学教授	坂 本 龍 雄	
8月6日(木) 9.00~12.00	Estuaryの水理	東京工業大学教授	吉 川 秀 夫	
13.00~16.00	河川構造物の水理機構	建設省土木研究所	土 屋 昭 彦	
16.00~16.30	終 了 式			

5. 定 員：A. 海岸・港湾コース 100名, B. ダム・河川コース 100名
6. 参加費：1コースにつき 5000円(テキスト代を含みます)
7. 申込方法：受講希望者は、① 氏名、② 勤務先および職名、③ 連絡先住所、④ コース名を明記のうえ、参加費(現金書留)を添えてお申込み下さい。
8. 申 込 先：土木学会事業課(〒160 東京都新宿区四谷1丁目・電話 (3) 351-5138)
9. 申込期限：7月10日(金)

橋 1968~1969 カラー写真入り A4判 96ページ 1600円(〒100円)

東名高速道路の橋梁一計画・設計・施工の概要■[受賞作品] 尾道大橋・浜名湖橋・第3綾瀬高架橋■鋼橋 1968年の展望■多摩川橋梁/無意根大橋/荒川・中川橋梁/新桂川橋梁/第1江戸川橋梁/新石狩大橋/安芸大橋/新瀬戸大橋/飯田橋歩道橋/川崎ターミナル歩道橋/横浜駅東口歩道橋/新伊東線地下道架道橋/福島仮設高架橋■コンクリート橋 1968年の展望■岡多線矢作川橋梁/東北本線荒川PC下路橋/総武本線荒川東高架橋/地震滝橋■1968年竣工主要橋梁一覧■[受賞論文] 長大つり橋の地震応答と耐震設計法に関する研究(小西・山田・高岡)ほか

## 第6回トンネル工学に関するシンポジウム（国際シンポジウム）

—Tunnel Symposium '70—

第6回トンネル工学に関するシンポジウムは、既報の通り、世界各国からのトンネル専門家の参加を求めて「セミ」国際シンポジウムの形式で下記のプログラムにより、9月14日～16日の3日間にわたり東京上野の東京文化会館において開催されます。

6月末現在までの外国からの申込み状況は予定されております6名の報告者である外国専門家のほかに、わが国にも知名の各国の専門家、たとえばドイツのシュミット・パウアー教授、オーストリアのアンゲラー技師、オランダのシヨイラー技師（チョック社）、イギリスのウイリヤムス技師（スコット・ウイルソン社）、アメリカのマシユー社社長等々、すでに40数名の方々が参加の申込みをされております。

土木学会が兼ねてから強く念願いたしております、各国専門家との情報意見の交換をはかり、相互協力の体制を固め、もってトンネル工学一般の進歩発展に貢献いたそうといたしている所は、予期以上に果し得るものと存じます。

現在までの参加申込み状況に鑑み、この好機会をさらに有効に利用するため、プログラムの一部を変更し、第2日目の午後3時半から、5時半までを、各国専門家との対論のために割くことといたし、『急速掘削』および『工費節減』を主要テーマとする Panel discussion を催すことにいたしました。

外国の専門家の参加も求めてトンネル工学を中心とする専門家の会同はわが国において、今回のシンポジウムが始めての試みであり、この意味において、本シンポジウムは、画期的な企画であると信じます。

このシンポジウムにより多くの国内の方々が、参加されて、多くの学ぶべきことを十二分に吸収して頂きたいと切に考えますので、ここに多数各位の参加を改めて招請いたします。

1. 期 日：1970年9月14日（月）、15日（火）、16日（水）
2. 会 場：東京文化会館小ホール（東京都台東区東上野公園1の2）
3. 会 費：会員 7000円 非会員 8000円（テキスト代含む）
4. 公用語：日本語・英語（同時通訳）
5. 懇親会：1970年9月14日（月）18.00～20.30／会場：パレスホテル（千代田区丸の内1番1号）／会費：3000円／申込方法：参加希望者はシンポジウム参加申込みとともに懇親会参加と明記のうえ会費3000円を添えてお申込み下さい。
6. 申込方法：氏名・勤務先・連絡先を明記のうえ、参加費を添えて現金書留で土木学会事業課（〒160 東京都新宿区四谷1丁目・電話（03）351-5138）あて8月15日までにお申込み下さい。定員がありますので満員の際はお断りすることもありますのであらかじめご了承下さい。

### 7. プログラム

#### 第1日目（14日）

9:30	受付、資料配布	
11:00～12:00	映画	
13:00～13:15	開会の挨拶	土木学会長 大石重成
13:15～14:45	特別講演：日本におけるトンネル工事	トンネル工学委員会委員長 藤井松太郎
14:45～15:00	休憩	

#### I 岩石トンネル掘進機の現状と将来

15:00～16:00	アメリカにおける岩石トンネル掘進機の現状と将来	
	Bechtel Overseas Corporation Engineers-Constructors	J. George Thon, Vice President (U.S.A.)
16:00～17:00	わが国における岩石トンネル掘進機の現状と将来	建設機械化研究所 三谷健
18:00～20:30	レセプション	

#### 第2日目（15日）

#### II 山岳トンネルにおける不良地盤掘削工法

9:30～10:30	イタリアの山岳トンネルにおける不良地盤掘削工法	
	Concessioni E. Construzioni Autostrade S.P.A. Dr. Ing. Diego Vanoni (Italy)	
10:30～11:30	わが国の山岳トンネルにおける不良地盤掘削工法	国鉄山陽新幹線建設部 島田隆夫
11:30～12:15	膨張性地山におけるトンネルの施工法	鉄道建設公団工務第1部 足立貞彦
12:15～13:30	昼食・休憩	
13:30～14:30	アメリカの不良地盤におけるトンネル掘削	
	Boyles Bros Drilling Company	Victor L. Stevens, Vice President (U.S.A.)
14:30～15:15	トンネル土圧の時間依存性	京都大学防災研究所 村山朔郎
15:15～15:30	休憩	
15:30～17:30	パネルディスカッション	

第3日目(16日)

Ⅲ 市街地の軟弱地盤におけるトンネル工法

9:30~10:30	イギリスにおける含水地下水層地盤のシールド工法について Mott, Hay & Anderson Consulting Civil Engineers T.M. Megaw, Director (England)	
10:30~11:30	わが国における都市トンネルの現状と特異性について	帝都高速度交通営団建設本部 西 嶋 国 造
11:30~12:15	東京駅における軟弱地盤の大規模開削	国鉄東京第1工事局 横 山 浩 雄
12:15~13:30	昼 食・休 憩	
13:30~14:30	ドイツの軟弱地盤における地下切り掘削について Philipp Holzmann Aktiengesellschaft Hauptniederlassung Berlin Dr. Ing. Wilfrid Krabbe (Germany)	
14:30~15:15	軟弱地盤における地下切り掘削工法の問題点	東京都交通局 遠 藤 浩 三
15:15~15:30	休 憩	
Ⅳ 沈埋工法の現状と将来		
15:30~16:30	オランダにおける沈埋工法の現状と将来 Rijkswaterstaat Directie "Sluizen En Stumen H.C. Wentink (Netherland)	
16:30~17:30	わが国における沈埋工法の問題点	鉄道建設公団東京外環状線部 大 平 拓 也
17:30~17:45	閉会の挨拶	トンネル工学委員会委員長 藤 井 松 太 郎

第3回日本地震工学シンポジウム

◀ 11月17日(火)~20(金) ▶

日本地震工学シンポジウムは、1962年に第1回が開催され、1966年の第2回について、本年秋その第3回が開催されることになりました。このシンポジウムは、世界地震工学会議の中間年ごとに催され、わが国において広い分野にわたる研究集会としての大きい意義をもつと同時に、そのプロシーディングスは、国際的にもきわめて高水準にあるものとして高く評価されております。

今回の第3回日本地震工学シンポジウム(Third Japan Earthquake Engineering Symposium-1970)は、つぎのような要領によって開催し、海外研究者の有志にも参加できるよう門戸を開くとともに、国内の地震工学研究者、技術者の研鑽および研究情報交換の場にいたしたいと存じますので、多数ご参加下さい。なお、土木学会において毎年開催しております“地震学研究発表会”は、1970年は開催いたしませんのでご了承下さい。

主 催：地震学会・土質工学会・土木学会・日本建築学会

1. 日 時：1970年11月17日(火)、18日(水)、19日(木)、20日(金)
2. 場 所：東京(第一生命ホールおよび東京商工会議所ホールの予定)
3. シンポジウムの内容：論文発表、パネル討論および見学
4. パネル討論：テーマ「地震時における地盤の挙動および地盤と構造物の相互作用」について行なう。
5. 見 学 会：国立防災科学技術センター大型振動台(筑波)

第3回岩の力学国内シンポジウム講演募集

◀ 講演申込締切 7月20日(月) ▶

共 催：土木学会・土質工学会・日本鉱業会・日本材料学会

1964年に第1回岩の力学国内シンポジウムが東京で開催されてより、その第2回が1967年に同じく東京で、また、今回第3回目が下記のように京都で開催されることとなりました。その間1970年にはベオグラードにおいて第2回国際岩の力学会議が開かれるなど、岩の力学分野の調査、研究は国の内外を問わずますます活発となっております。このときに当り第3回国内シンポジウムを催し、わが国の岩の力学の分野における研究者、技術者の交流ならびに研鑽、情報交換の場といたしたく存じます。つきましては、このシンポジウムの成果を高めるため各位にはふるってご応募くださるようご案内いたします。なお、土木学会において毎年開催しております“岩盤力学に関するシンポジウム”は、本年度は開催いたしませんのでご了承下さい。

記

1. 期 日：1970年11月26日(木)、27日(金)
2. 会 場：京都府会館第1会議場(京都市左京区岡崎公園内)
3. シンポジウムの形式と応募論文の取り扱い

本シンポジウムでは、課題論文ならびに自由論文の発表を行なう。本会告による応募論文は自由論文として扱う。その講演時間は、応募論文数より1題当り15分程度となることもありうる。



#### 4. 発表論文の募集要項

- 1) 発表論文の内容：岩の力学に関するもの（発表論文は最近の研究に属する未発表のものが望ましいが、1部研究発表のものを含んで差しつかえない）
- 2) 応募の方法：
  - a) 論文発表希望者は7月20日（月）までに所属学会、氏名、勤務先、連絡先を明記のうえ邦文400字以内の梗概を所属学会または幹事学会（日本材料学会：京都市左京区吉田泉殿町1の101）に提出すること。
  - b) シンポジウム運営委員会は発表論文の採否を決定し、応募者に通知する。
  - c) 採択された論文の著者は9月30日（火）までに、次の体裁を整えた原稿を所属学会または幹事学会に提出すること。
- 3) 発表論文の体裁：
  - a) 用話は邦文とする。
  - b) 著者は送付された所定の原稿用紙5枚（図、表、写真を含む）にタイプする。また、別のタイプ用紙1枚に英文タイプによる要旨を添付すること。
  - c) タイプの要領などは執筆要項によること。
- 4) 予稿集：
  - a) 発表論文は前刷としてオフセット印刷する。
  - b) 著者には論文1題に別刷50部を贈呈する。ただし50部以上の増刷は原則として行なわない。

## 第7回災害科学総合シンポジウム講演募集

文部省科学研究費特定研究（災害科学）の災害科学総合研究班（研究代表者 長谷川万吉氏）が中心となり、下記により災害科学総合シンポジウムを開催いたしますので、本学会はこれを後援することにいたします。ふるってご参加下さるようご案内します。

### 記

1. 期 日：1970年11月9日（月） 10.00～17.00  
10日（火） 10.00～17.00
2. 場 所：宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所
3. 講演申込要領：
  - (1) シンポジウム・テーマ：下記テーマを取り上げますから、それに沿った講演を募集します。  
(A) 集中豪雨と災害、都市化と自然災害、湾奥、河口災害、交通雪害、地すべりの予測、強風、強震に対する地盤、構造物の応答、地震予知論について、その他。  
(B) 災害資料の収集と解析（災害調査、資料の解析法、資料の規格化等）
  - (2) 講演申込締切：8月10日、講演題目、氏名、勤務先および講演内容の概要（200字以内）を記し下記宛に申込むこと。
  - (3) 講演原稿の提出：締切9月21日所定の用紙2枚または4枚（図表を含む）の講演原稿を下記宛提出のこと。申込用紙、原稿用紙は請求次第送付する。
  - (4) 申 込 先：宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所 芦田和男教授 電話（0774）32-3111・内線 555

## 原子力研究将来計画シンポジウム

1. 主 催：日本学術会議原子力特別委員会
2. 日 時：1970年7月21日（火） 10.00より17.00まで
3. 場 所：東京都港区六本木 7-22-34、日本学術会議新館大会議室（予定）
4. 内容の概要：イ）計画の全般的構想、ロ）地区センター構想、ハ）臨海集合体と高中性子束炉、ニ）パルス炉、ホ） $\alpha$ 放射体研究施設、ヘ）重イオン加速準備研究、ト）総括的討論

“新材料・新工法を用いた構造物における諸問題”に関する研究発表論文募集  
(第 17 回橋梁・構造工学研究発表会)

例年行なわれております橋梁・構造工学研究発表会を、本年度は下記により標題のテーマのもとに開催致します。  
本年度は申込み締切までに多少余裕をもたせましたので、多数の方がふるって論文提出にご応募下さい。

1. 期 日：1970 年 12 月 4 日(金)
2. 共 催：日本学術会議構造研究連絡委員会・土木学会・日本建築学会
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷 1 丁目)
4. 申込要領：
  - (1) 論文内容：つぎの 2 項目に関する独創的な実験的、理論的研究あるいは考察を対象とする。
    - (a) 構造工学における新材料、新工法の提案とその裏付けとなる研究成果
    - (b) 近年、構造工学の分野で提案され、あるいは実用に供されつつある新材料、新工法に対する批判、反省およびそれらに関する経験的報告
  - (2) 申込方法：8 月 31 日までに論文題目、発表者氏名(連名の場合は登壇者に○印を付ける)、勤務先、および連絡先 100 字以内の内容便概を添えて所属学会にお申込み下さい。採否は日本学術会議構造研究連絡委員会におまかせ願います。採用のうへは、10 月 15 日までに講演原稿の提出方をお願い致します。

北海道支部行事案内 (郵便番号 060 札幌市南 1 西 2・勸銀ビル 5 階)  
電 0122-25-7038

(1) 見 学 会

共催：土質工学会北海道支部(特に道外よりの参加歓迎)

各回共 ① 参加料：会員 700 円、一般 1000 円、学生 500 円(各前納) / ② 定員：50 名 / ③ 申込締切：開催日の 3 日前 /  
④ 雨天決行 / ⑤ 乗物：観光バス / ⑥ 昼食：支部負担

第 2 回 札幌地区 —地下鉄工事とオリンピック施設—

期 日：1970 年 8 月 21 日(金)

出 発：大通テレビ塔 9:00(集合 20 分前) 帰 着：17:00

見 学：地下鉄工事(四丁目附近・中島公園附近)～真駒内オリンピックスケート競技場(室外、室内)～昼食(宮の森ガーデン)～大倉山ジャンプ～手稲山オリンピック展望台

第 3 回 帯広地区 —新登川トンネル・三岩橋(1 号～4 号)

期 日：1970 年 9 月 18 日(金)

出 発：帯広駅前 9:00 帰 着：17:00

見 学：日勝道路工事～新登川トンネル～2 級国道 237 号線三岩橋梁工事(1 号橋～4 号橋)

第 4 回 札幌地区 —札幌新道高架・石狩川河口橋—

期 日：1970 年 10 月 9 日(金)

出 発：札幌駅前 9:00 帰 着：駅前解散 17:00

見 学：石狩川河口橋～札幌新道高架～札幌駅地下鉄工事

中部支部行事案内 (名古屋市中区三ノ丸・名古屋市役所土木局道路部建設課内)  
03-961-1111, 内線 2464

(1) 昭和 45 年度技術講座

◀ 8 月 21 日(金) ▶

1. 日 時：1970 年 8 月 21 日(金)
2. 場 所：愛知建設業会館(名古屋市中区栄 3-28-21)
3. 題 目：橋梁工学講座

4. プログラム:

- |               |                                |                 |
|---------------|--------------------------------|-----------------|
| ① 9.30~9.40   | 開会あいさつ                         | 支 部 長 谷 重 幸     |
| ② 9.40~11.40  | 構造解析に関する最近の進歩<br>屋 食           | 名古屋大学教授 成 岡 昌 夫 |
| ③ 13.00~14.40 | 鋼橋に関する最近の進歩                    | 京都大学教授 小 西 一 郎  |
| ④ 14.50~17.30 | FIP-CEB コンクリート設計施工指針(1970)について | 名古屋大学講師 猪 股 俊 司 |

5. 定 員: 200 名

6. 会 費: テキスト代 200 円

7. 申込方法: 8月15日(土)までに中部支部へ会費をそえてお申込みください。なお期限内でも定員になり次第しめきります。

(2) 昭和45年度第2回見学会

◀ 9月11日(金) ▶

1. 日 時: 1970年9月11日(金)
2. 場 所: 矢作ダムおよび矢作第一, 第二発電所
3. 集合場所: 名古屋テレビ塔北 観光バス発着所
4. 集合時刻: 9.00
5. 行 程: 9.00 出発~18.00 頃, 名古屋テレビ塔解散の予定
6. 定 員: 50 名
7. 会 費: 300 円
8. 申込方法: 9月4日(金)までに中部支部へ, 会費をそえてお申込みください。なお期限内でも定員になり次第しめきります。

関西支部行事案内 (郵便番号 541 大阪市東区船場中央2丁目2番地)  
船場センタービル 4号館 409号  
電話 大阪 06-271-6686 番 振替口座 大阪 82599 番)

(1) 「材料の疲労破壊と安全設計」講習会

◀ 8月24日(月)~25日(火) ▶

主催: 日本材料学会関西支部 協賛: 土木学会関西支部ほか8学協会

1. 日 時: 1970年8月24日(月), 25日(火) 9.30~16.30
2. 場 所: 日経ホール7階 電話大阪(06)231-8201  
大阪市東区高麗橋 1-1 (地下鉄御堂筋線淀屋橋地下道東に徒歩12分)

3. 題目と講師

(第1日) 疲労に対する設計概説

- |             |                        |                 |
|-------------|------------------------|-----------------|
| 9.30~10.40  | ① 疲労に対する設計と安全率         | 神 戸 大 中 川 隆 夫   |
| 10.55~12.25 | ② 実働荷重の解析と寿命設計         | 立 命 館 大 田 中 道 七 |
| 13.30~14.50 | ③ 低サイクル疲労における累積損傷と寿命設計 | 阪 大 菊 川 真 一     |
| 10.05~16.25 | ④ 疲労亀裂の発生と進展           | 東 工 大 中 沢       |

(第2日) 疲労破壊の実例と対策

- |             |                       |                 |
|-------------|-----------------------|-----------------|
| 9.30~10.50  | ⑤ 車軸の疲労の問題点と対策        | 住友金属中研 西 岡 邦 夫  |
| 11.05~12.25 | ⑥ 自動車における耐疲労設計の現状と問題点 | 豊 田 中 研 青 山 成 恒 |
| 13.30~14.50 | ⑦ 船舶における低サイクル疲労の実例と対策 | 東 大 飯 田 國 広     |
| 15.05~16.25 | ⑧ 圧力容器の低サイクル疲労破壊とその対策 | 神 戸 大 山 田 稔     |

4. 定 員: 150 名

5. 参加費: 主催, 協賛学協会員 5000円 } テキスト代を含む  
          会員外 6000円 }

6. 申込期限: 1970年8月15日(土)

7. 申込方法: 参加希望者は勤務先, 連絡先, 氏名および所属学協会名を明記し, 上記参加費を添えてつきへお申し込み下さい。

申 込 先: 日本材料学会関西支部 電話大阪(06)441-5531

大阪市西区靱1丁目 118 大阪科学技術センター6階 (郵便番号 550)

(2) 第3回業務研究発表会 (昭和 45 年度)

◀ 8 月 26 日 (水) ▶

主催：建設コンサルタンツ協会大阪支部 後援：土木学会関西支部

1. 日 時：1970 年 8 月 26 日 (水) 10.20 分～16.40

2. 場 所：中央電気倶楽部 4 階ホール 電話大阪 (06) 362--6351 番  
大阪市北区堂島中 2 丁目 9 番地

3. プログラム：

10.20～10.30	開 会 検 拶	建設コンサルタンツ協会大阪支部長	藤 田 駿 五
10.30～11.00	① 橋りょうの部分構造についての考察	日本建設コンサルタント(株)大阪支所	小崎 威・石崎 巖
11.00～11.30	② 橋りょうのたわみについて (既設橋りょうの実測たわみ)	(株)修成建設コンサルタント	岩井 健二・菅原 武之
11.30～12.00	③ 皆生海岸における推算波浪と実測波浪の相関について	日本建設コンサルタント(株)大阪支所	深谷 新・市原 伸一
特 別 講 演	13.00～13.45 (題目未定)	大阪市総合計画局長	福 山 真 三 郎
13.45～14.15	④ 街路網計画の方生論的研究に関する一考察	中央復建コンサルタンツ(株)	朴 性 辰 攻
14.15～15.00	⑤ 小型電子計算機の構造設計への適用性および建設コンサルタント「設計プログラム集」について	京都大学工学部大学院 技術研究委員会電子計算機分科会	山 田 博 之 柳 茂 樹
15.15～15.45	⑥ 長大スパントラス橋の横倒れげ屈理論の紹介と計算	大和設計(株)	三 浦 利 夫
15.45～16.30	⑦ PERT による工程管理 (その3)	技術研究委員会 施工管理分科会	大 家 康 照
16.30～16.40	閉 会 検 拶	業務研究発表会実行委員長	

4. 定 員：300 名

5. 聴 講：無料、資料当日先着 200 名無料贈呈 (それ以外の取扱いはいたしません)  
その他お問合せについて下記へご連絡下さい。

連 絡 先：建設コンサルタンツ協会大阪支部 電話大阪 (06) 351-9369  
大阪市北区与力町 1 丁目 15 番地 北末ビル (郵便番号 530)

(3) テキスト頒布について

物理探査の土木工事への応用	頒価 1 000 円	送料 80 円
都市廃棄物の処理と処分	" 800 円	" 60 円
土木工事における土中水の扱い方	" 1 500 円	" 80 円
工程管理 (演習問題解答付)	" 1 500 円	" 100 円
工事の安全対策	" 1 000 円	" 80 円
近畿開発と大型土木プロジェクト	" 600 円	" 60 円
建設工事に伴う騒音、振動の調査報告 (騒音振動委員会編)	" 200 円	" 45 円
公害振動測定法 (案) ( " )	" 無 料	" 35 円
騒音・振動公害	" 1 500 円	" 100 円
シールド工法研究会資料 (地下鉄シールドの問題点 シールド工事施工上の問題点の 2 点 1 組)	" 150 円	" 55 円
写真測量とその応用	" 1 200 円	" 80 円
土木工学における動的現象の計測とデータ処理	" 1 000 円	" 80 円 (残部僅少)
水理学・水文学における最近の進歩	" 1 500 円	" 100 円
プレストレストコンクリート最近の進歩	" 1 200 円	" 80 円
45 年度関西支部年次学術講演会 講演概要	{ 正 会 員 " 200 円	" 100 円 (残部僅少)
	{ 学 生 会 員 " 100 円	" "
	{ 非 会 員 " 500 円	" "

上記テキストご希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

中国四国支部行事案内 (郵便番号 730 広島市基町10番3号 (自治会館内)  
土木学会中国四国支部事務局 電話 0822-21-2666)

(1) 昭和45年度中国四国支部年次総会・特別講演会

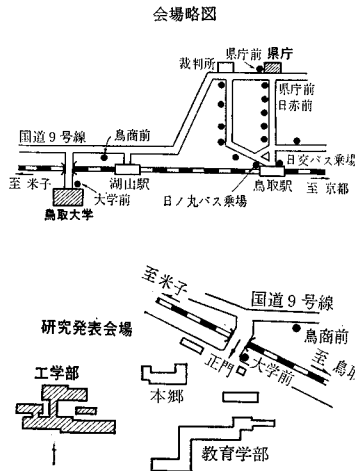
◀ 7月25日(土) ▶

1. 会場：鳥取県庁(鳥取市東町1の220・電(鳥取 22-7111))
2. 日時：1970年7月25日(土) 総会 10.30~10.50  
特別講演会 11.00~16.00
3. 次第：  
総会：昭和44年度事業報告/昭和44年度会計報告/昭和45年度事業計画/昭和45年度実施予算/新役員の紹介

特別講演会：

- |               |            |         |
|---------------|------------|---------|
| 鳥取県の土木事業について  | 鳥取県土木部長    | 八田 晃 夫  |
| 海岸保全について      | 京都大学教授 工博  | 岩 垣 雄 一 |
| 国土計画と交通       | 京都大学教授 工博  | 天 野 光 三 |
| 山陰地域の表層地質について | 鳥取大学助教授 理博 | 赤 木 三 郎 |

4. 講演概要集頒布：当日会場が販売(実費)しております。



(2) 中国・四国支部第22回学術講演会

◀ 7月26日(日) ▶

1. 会場：鳥取大学工学部(鳥取市湖山町1番地1・電(鳥取 28-0321))
2. 日時：1970年7月7日(日) 9.00~17.00
3. 講演題目および講師：(発表時間1題討議を含めて13分) 詳細は本誌55巻第6号会告14~15ページ参照

(3) 見学会

◀ 7月27日(月) ▶

1. 日時：1970年7月27日(月) 8.30~15.10
2. 見学コース：8.30 発 鳥取県庁—8.50 着鳥取砂丘 9.20 発(国道9号線見学)—11.20 通過大山口—12.00 着 大山寺(昼食)  
12.30 発(大山有料路見学)—13.00 通過 大山有料路—13.40 着 境港(境水道大橋見学) 14.30 発—15.10 着  
着米子駅 解 散  
列車—15.27 発 ちどり3号 広島行 着 20.55  
15.27 発 しんじ2号 宇野行 着 20.04
3. 定員：50名 申込み順に受け付けます
4. 会費：500円 参加希望者、勤務先、氏名のうえ、会費をそえて7月10日(金)までにお申込み下さい。

西部支部行事案内 (郵便番号 810 福岡市薬院2丁目14-21・092-78-3716)

(1) 夏期講習会

◀ 8月21日(金) ▶

1. 期 日：1970年8月21日(金) 新湯バス停前
2. 場 所：長崎県雲仙、雲仙ホテル
3. 講習内容：(中級技術者を主たる対象とする)

- |                    |                     |         |
|--------------------|---------------------|---------|
| ① 開会のあいさつ          | 土木学会西部支部長(福岡県土木部長)  | 吉 岡 正 文 |
| ② 県下の土木事情について(仮題)  | 長崎県土木部長             | 渡 辺 保 彦 |
| ③ 山陽新幹線建設について      | 国有鉄道下関工務局次長         | 天 野 禮 二 |
| ④ 関門橋の概要について       | 日本道路公団高速道路関門建設所工務課長 | 仁 木 理 夫 |
| ⑤ 大分製鉄所建設について      | 新日本製鉄大分製鉄所建設所副長     | 松 田 秀 夫 |
| ⑥ 六角川河口堰計画について     | 建設省武雄工事事務所長         | 堀 川 光 治 |
| ⑦ 三菱重工香焼島新工場計画について | 西日本三菱重興産建設部次長       | 高 瀬 千 年 |
| ⑧ 立体構造物の相似率について    | 熊本大学工学部 助教授         | 三 池 亮 次 |

- ⑨ 都市水文学について
- ⑩ 板・柱直結構造の理論と設計
- ⑪ 長崎港の将来計画

宮崎大学工学部 教授 石 黒 政 儀  
九州大学工学部 助教授 榑 木 武  
運輸省長崎港工事事務所長 市 原 義 隆

4. 参加料：1000 円

## (2) 見学会

◀ 8 月 22 日 (土) ▶

- 1. 期 日：1970 年 8 月 22 日 (土)
- 2. 場 所：三菱重工長崎造船所および長崎市内
- 3. 行 程：雲仙ホテル (8 時 30 分発)～長崎外港 (香焼)～孔子廟 (昼食)～大浦天主堂グラブパー邸～三菱重工長崎造船所～平和記念像 (通過)～長崎駅前解散 (14 時 40 分頃)  
(参考) 汽車長崎駅発 いなさ 4 号 15 時 03 分博多, 別府行  
" いなさ 5 号 17 時 30 分博多行  
" 雲仙 2 号 19 時 30 分京都行  
(特急および普通列車省略)

4. 参加料：800 円

## (3) 映画会

◀ 8 月 20 日 (木)～21 日 (金) ▶

- 1. 期 日：1970 年 8 月 20, 21 日 両夜夕食後
- 2. 場 所：上記講習会大広間
- 3. 上映映画：三菱重工・巨大船をつくる
- 4. 無 料：

### ▶参加申込みについて

- 1. 申込書に住所、勤務先、氏名記載のうえ、講習会参加料 (1000 円)、見学会参加料 (800 円)、および宿泊予約料 (1泊につき 300 円) を添えて支部あて申込むこと  
(不参加の場合払戻はしないがテキストは送付する)
- 2. 宿泊料は 1 泊 2000 円、宿泊予約料はその内金につき、参加当日 1 泊につき 1700 円支払のこと
- 3. 申込期日および定員 (講習会、見学会共) 1970 年 8 月 5 日まで 150 名 (先着順)
- 4. 申 込 先 福岡市薬院 2 丁目 14-21 郵便番号 810 電話 (78) 3716
- 5. 申込書用紙は各主要機関の長または班長あて送付するが個人会員その他会員外でも必要の向きは支部に請求されたい。ただし便宜用紙で申込されても差支えない。

## 第 14 回 材料研究連合講演会

◀ 9 月 1 日 (火)～2 日 (水) ▶

例年のとおり、標記の講演会が関係 24 学協会の共催によって、下記要領で開催されます。プログラムをご希望の方は、土木学会総務課あてはがきでお申込み下さい。

場 所：京都府立勤労会館 第 1 会議室  
あ い さ つ：日本学術会議材料研究連絡委員会委員長

京都大学教授 石 原 藤 次 郎

特別講演：「材料研究長期計画について」

東北大学教授 横 堀 武 夫

「材料の開発科学」

東京大学名誉教授 牧 島 象 二

一般講演：91 題

シンポジウム：12 題

パネルディスカッション：5 題

講演前刷集：1100 円 (予約申込みに限り 1000 円) 代金を添えて 8 月 12 日 (水) までに、郵便番号 606 京都市左京区吉田泉殿町 1-101 日本材料学会あてお申込み下さい。

## 国際会議ニュース

### (1) 国際かんがい排水委員会 (ICID) 総会に係る論文募集

ICID 国内委員会は 1972 年ブルガリヤ国ヴァルナ市において開催される第 8 回総会に係る論文をつぎの要領で募集しております。

テーマ:

- Field irrigation and drainage in deltaic, coastal and lowlying areas
- Recent and promising developments including mechanization of operations in the field of irrigation and drainage
- Factors affecting river training; and flood plain regulation (including flood zoning)

論文提出方法: 約 1600 字の論文要約を 1970 年 6 月 30 日までに提出。ICID 国内委員会で内容審査する。採用論文については 1970 年 9 月 30 日までに提出。

連絡先: 農林省農地局計画部技術課 ICID 日本国内委員会 電話 (501) 3748 または 建設省河川局河川計画課 電話 (580) 3889。

### (2) IRF (International Road Federation) による The VI World Highway Conference

開催地: Montréal, Canada

開催期日: 1970 年 10 月 4~10 日

連絡先: Executive Secretary

VI World Highway Conference  
Place Bonaventure (Suite 20 Elgin)  
Montréal 114, Québec, Canada

会議用語: 英語, 仏語, 独語, スペイン語

すべての論文は, そのまま, 上記 4 カ国語の abstract をつけて出版される。

なお, 会議の前後に特別見学旅行を予定しています。

### (3) The Second World Congress of Engineers and Architects in Israel

上記の国際会議がイスラエルの Tel Aviv で開催されます。

期日: 1970 年 12 月 14~18 日

テーマ: "Dialogue in Development-Integration of Interdisciplinary Planning and its Implemen-

tation in Development Work"

1. Dialogue
2. Integration
3. Modern Development Practice

会議用語: 英語, 仏語, スペイン語, ヘブライ語

費用: I.T.C.C. および Association of Engineers and

Architects in Israel の会員 \$ 60.00

非会員 \$ 70.00

同伴者 \$ 40.00

連絡先: Congress Secretariat

2nd World Congress of Engineers and

Architects in Israel

200 Dizengoff St., P.O.B. 3082

Tel Aviv, Israel

### (4) 第 5 回国際金属腐食会議

主催: 日本金属腐食会議を構成する 21 学協会

期日: 1972 年 (昭和 47 年) 5 月 21 (日)~27 日 (土)

会場: 東京プリンスホテル (東京都港区芝公園 3 号地)

会議テーマ (案)

- (1) 腐食過程の基礎的問題
- (2) 金属防食の工学的問題
- (3) 工業における腐食事故例と経験
- (4) 金属と合金の腐食に関するその他の問題

事務局: 東京都目黒区中目黒 2 丁目 3 番 12 号

金属材料技術研究所 伊藤五郎 気付

### (5) International Courses in Hydraulic and Sanitary Engineering Delft, Netherlands

例年のごとく, 表記のコースが, 本年 10 月より来年 9 月にかけての 11 ヶ月間, オランダ国デルフトにおいて開催されます。コースとしては, 水工学 (hydraulic engineering), 水文学 (hydrology), 衛生工学 (sanitary engineering) の 3 つに大別されております。

申込期日: 1970 年 8 月 20 日

申込先: The Netherlands Universities Foundation for International Co-operation, 27 Molenstraat, The Hague, The Netherlands

詳細問合せ先: 土木学会編集課 (パンフレットおよび申し込み用紙あり)

### (6) Symposium on Mass-Produced Steel Structures

主催: International Association for Bridge and

Structural Engineering (I.A.B.S.E.)

期 日：1971年9月23日, 24日

開催地：Prague, Czechoslovakia

- テーマ：1) Production Technology (部材, 構造物の加工, 製作, 架設)  
2) Design Concepts (生産技術との関連において)  
3) Applications in Structural Engineering (建築, 鉄塔, その他における応用)  
4) Applications in Bridge Engineering (具体的な橋梁の例, 標準設計など)

会議用語：英語, 独語, 仏語

参加方法：参加者は I.A.B.S.E. 会員(随時入会できる)で, なるべく早く\*所定の申込カードを事務局に提出する. 一般参加者はあらかじめ用意された Introductory Reports に対する Prepared Discussion を前もって提出することができる.

連絡先：Secretariat of I.A.B.S.E.

“Prague Symposium”

Swiss Federal Institute of Technology  
CH-8006, Zurich, Switzerland

\* チェコではビザの交付期間が長くかかりますので早めにお申込み下さい.

(7) CISM (International Centre for Mechanical Science) (UDINE-Palazzo del Torso, Piazza Garibaldi 11, Italy) では, 1970 年度の事業として

First Session (6.15-7.31)

Micropolar Elasticity; Computational Gasdynamics; Selected Topics of Automation and Information

Second Session (9.15-10.31)

Theory of Gyroscopes with Applications, Extremum and Variational Principles in Mechanics; Modern Methods in Experimental Stress Analysis; Fluidic Systems

の Session を開いています. 第2 Session への希望者は8月5日までに応募することになっています.

講師および題目, その他については, 名古屋大学工学部成岡昌夫教授までご連絡下さい.

(9) MIT の夏期授業

テーマ：① Formulation and Solution of Problems in Water Resources Planning

② Engineering Case Studies Illustrating New Techniques

開催日：1970年8月31日～9月4日

講師：Dr. P.S. Eagleson, Dr. D.R.F. Harleman, Dr. David C. Major, Dr. D.H. Marks, Dr. F.E. Perkins, Dr. J.C. Schaake

参加費：U.S. \$300

なお, 詳細は下記に問合せのこと.

Director of Summer Session

Room E 19-356

Massachusetts Institute of Technology,  
Cambridge

Massachusetts 02139, U.S.A.

#### (10) IXth Czechoslovak Conference on Steel Structures Steel in Civic Buildings

開催期日：1970年9月22日～25日

開催地：High Tatra Mountains

テーマ：I. Theoretical Problems

II. Elements of Structures

III. Manufacture, erection and protection against corrosion

IV. Fire Protection

V. Architecture and Steel Structures.

Specimens of Application

討 議：討議内容は, 会議の開催前に下記の連絡先までお送り下さい. なお討議用のスライドは 5×5 cm のものを用意すること.

参加費：25ドル (500 Kčs)

連絡先：OBLASTNA RADA SVTS

Ing. F. Cehula CSc., Marxova 16, Košice  
Czechoslovakia

なお, 最終日 25 日は, Fast-Slovakian Iron-Works の見学あり (費用は1名5ドル).

#### (11) International Symposium on Shell Structures in Fluid Environment, 1971

開催期日：1971年8月29日～9月3日

開催地：ハワイのホノルル

テーマ：(a) Effects of Fluid Environment

(b) Analytical, Numerical, and Experimental Methods in Static and Dynamic Analysis of Thin and Thick Shells Partially or Totally Submerged

(c) Conceptual Designs

(d) Suitable Structural Materials

(e) Construction Methods

(f) Related Special Problems

その他：論文申込希望者は, 1970年9月1日までに



短い abstract (6 000 語) をつけて下記に申込むこと。  
採用論文は 1971 年 3 月 1 日までに提出する。

論文申込先および詳細問合せ先：

Professor Rudolph Szilard, Chairman  
Organizing Committee of IASS Symposium  
1971-Hawaii  
c/o University of Hawaii  
Center for Engineering Research Honolulu,  
Hawaii 96822, U.S.A.

**(11) Second World Congress of Engineers and Architects**

開催期日：1970 年 12 月 14 日～18 日

開催地：Tel Aviv, Israel

テーマ：Dialogue in Development-Integration of  
Interdisciplinary Planning and Its Imple-  
mentation in Development Work

会議公用語：英語，仏語，スペイン語，ヘブライ語

参加費：ITCC 会告および AEAI の海外会員 60ドル  
非会員 70ドル  
同伴者 40ドル

申込先：Congress Secretariat  
Second World Congress of Engineers and  
Architects in Israel 200 Dizengoff St., P.O.B.  
3032, Tel Aviv-Israel

**(12) International Symposium on Low Cost Housing**

開催期日：1970 年 10 月 8 日～9 日

開催地：アメリカ，ミズリー大学

テーマ：1. Low Cost Housing Projects Around the  
World and in the United States  
2. Construction Methods for Low Cost  
Housing  
3. Analytical and Experimental Research  
Related to Low Cost Housing  
4. Financing of Low Cost Housing  
5. Sociological and Psychological Problems  
Related to Low Cost Housing and  
Management of Low Cost Housing  
Systems

論文：上記のテーマについて論文提出希望者は，200  
～300 語の短い Abstract を 1970 年 8 月 15 日  
までに下記に提出のこと。

論文提出先：

Dr. Oktay Ural, Associate Professor  
Civil Engineering Department, University

of Missouri-Rolla  
Rolla, Missouri 65401, U.S.A.

または

Dr. Joseph H. Senne, President, ASCE  
Midwest Section Chairman, Civil Engi-  
neering Department University of  
Missouri-Rolla  
Rolla, Missouri 65401

なお，正式論文は，1970 年 9 月 10 日までに提出。

**(13) First International Conference on Structural Mechanics in Reactor Technology**

日時：1971 年 9 月 20 日～24 日

場所：ベルリン

**Topical Scope of the Conference :**

- a) Structural Analysis of Reactor Components
- b) Interaction Between Structural Mechanics  
Science and Practical Engineering
- c) Mathematical-Physical Characterization of  
Materials
- d) Boundary Fields
- e) Computer Methods in Solid and Structural  
Mechanics
- f) Design Conditions : Reliability of Mechanical  
Systems

論文申込みについて：

1970 年 10 月 15 日 要旨受付最終日

1970 年 11 月 15 日 著者に連絡

1971 年 1 月 30 日 全文受付最終日

**1971 年 3 月 31 日** 上記に対する 改訂申込受  
付最終日

**Executive Committee :**

J.H. Argyris (スツッツガルト工科大学，有限要素法  
で著名)

Th.A. Jaeger (連邦立材料試験所およびベルリン工  
科大学原子核工学研究所) (Grundzüge der Strahlen-  
schutztechnik für Bauingenieur, Verfahren-techniker,  
Gesundheitsingenieure, Physiker, Springer-Verlag,  
1960, p. 392 の著者である一土木工学者で，こんな大著  
がある)

Z. Zudans (フランクリン研究所)

くわしくは，Neuclear Engineering and Design, 11  
(1969), No 2 参照のこと。

**(14) 構造物に対する風の作用に関する第 3 回国際会  
議**

(通称：耐風構造国際会議，3rd International Con-  
ference on Wind Effects on Buildings and Stru-

ctures)

標記の国際会議は本学会のほか日本建築学会，日本鋼構造協会共催，日本学術会議などの後援のもとに東京において開催されることになりました。主要事項は次のとおりです。

1. 日時・場所：1971年9月6日～11日（見学旅行を含む）東京（会場未定）
2. 登録：第1回サーキュラー（個人招待者に配布済み（学会事務局にもあります）にある申込用紙による。  
原則として参加人員は250人に制限しておりますが資格は問いません。ただし申込締切における状況に応じてオブザーバー制をとることがあります。  
登録受付：〒100東京都千代田区丸の内3-2  
新東京ビル848号 日本鋼構造協会気付耐風構造国際会議組織委員会

3. テーマ

- (1) 強風の構造
- (2) 強風の統計的評価および設計風速
- (3) 風力の決定（過渡現象，乱れの影響などを含む）

む）

- (4) 風の作用をうける構造物の挙動（実測，実験，理論）
- (5) 耐風設計の規準および実際

4. 論文受付および印刷

- a. 1970年9月30日までに上記2.の登録とともにテーマおよび100語程度の要旨を添えて申込む。
- b. タイプ用紙1枚程度の論文概要を1971年3月31日までに提出し，これをプレプリントとして参加者にあらかじめ配布する。
- c. フルペーパーは1971年4月末日までに提出し，これはオフセットして会議当日配布される。
- d. 会議当日の討議，その他の記事を含めて後日プロシーディングスを刊行する。

なお，論文執筆要領は具体的プログラムとともに，第2回サーキュラーでお知らせします。

5. 参加費：40ドル（同伴者あるときは55ドル）

6. その他：問合せは東京大学工学部土木工学科 伊藤 学 助教

（電 03-812-2111 内 3233, 3227）へお願い致します。

欧文論文集 TRANSACTIONS OF JSCE 刊行のお知らせ

土木学会では従来の論文集の名称を論文報告集 (Proceedings) と改め，内容の充実にあたりとともに従来の欧文要旨を発展的に解消し欧文論文集を年2回刊行することになり，その第1冊目として今回 Vol. 1, Part 1, 1969 を刊行しました。つづいて近く Vol. 1, Part 2 を刊行し，45年度分として Vol. 2, Part 1, Part 2, 1970 を刊行します。国際情報化が緊密化する今日わが国の研究水準を広く海外に紹介する意味において一人でも多くの方々に御購入方をおすすめし，多数の論文を海外へ紹介できるよう御協力下さるようお願いいたします。

体 裁：B5判 180～200 ページ

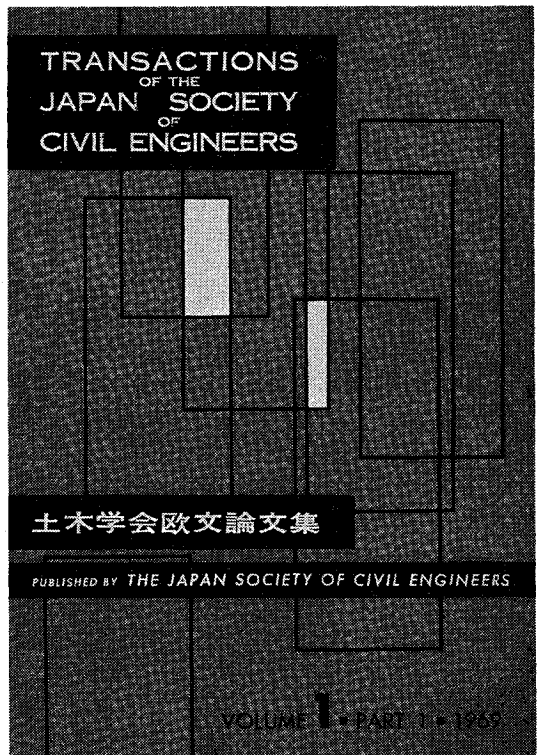
論 文 数：13～25 編，ほかに要旨

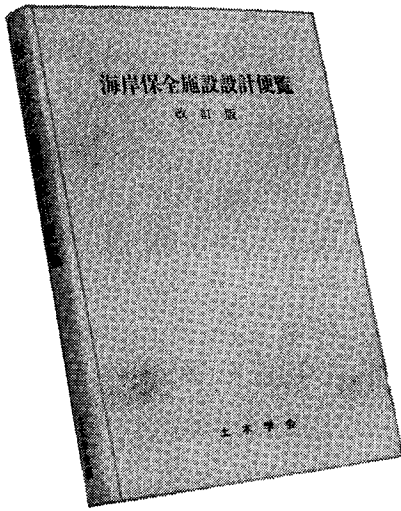
定 価：1冊 1500 円，年間購読：2500 円

(送料とも)

申 込 先：土木学会へ

<欧文論文集の表紙>→





昭和32年以来、丸12年ぶりに全面改訂された決定版。36名におよぶ執筆者が、それぞれ得意な分野を手分けして執筆。とくに現場に役立つよう設計施工面に重点をおいて記述す。

B5判 304ページ上製

■定 価 2300円

□会員特価 2000円  
(〒100円)

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京16828

**土木学会**

土木学会海岸保全施設設計便覧改訂小委員会編

# 海岸保全施設設計便覧 改訂版

## 主要目次

### 第1章 海岸における水理現象

第1節 概論 第2節 波の概説 2.1 波の種類 2.2 波の発達 2.3 波の進行に伴う変化 第3節 深海波 3.1 深海波の性質 3.2 深海風波の推定法 第4節 浅海波 4.1 浅海の進行波の性質 4.2 屈折 4.3 回折 4.4 反射 4.5 重複波 4.6 海底摩擦 4.7 碎波 第5節 波力 5.1 重複波の波圧 5.2 碎波の圧力 5.3 碎波後の波の波圧 5.4 水中の物体に作用する波力 5.5 波力に対する捨石斜面の安定 5.6 波のうちあげ高 5.7 越波量 第6節 潮位 6.1 天文潮 6.2 気象潮 第7節 津波 7.1 津波の発生と伝播 7.2 陸棚上および湾内津波と津波の遡上 7.3 わが国での津波 第8節 流れ 8.1 海流 8.2 潮流 8.3 密度流 8.4 風および波による流れ 第9節 漂砂 9.1 概説 9.2 海岸地形と漂砂 9.3 漂砂量 第10節 飛砂 10.1 概説 10.2 飛砂量

### 第2章 海岸調査

第1節 気象観測 1.1 概説 1.2 風の観測 第2節 波の観測 2.1 概説 2.2 波高、周期の観測 第3節 漂砂の調査 3.1 概説 3.2 調査法 第4節 土質調査 4.1 概説 4.2 調査法 第5節 流れの観測 5.1 概説 5.2 観測法

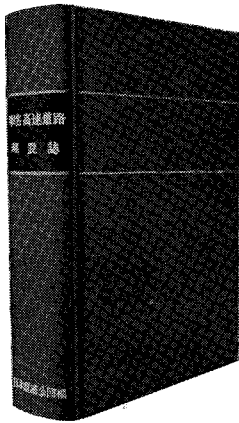
### 第3章 設計法

第1節 概論 1.1 海岸工事概説 1.2 高潮対策 1.3 埋没および侵食対策 第2節 材料 2.1 アスファルト 2.2 鋼材 2.3 矢板 2.4 コンクリート 2.5 木材 2.6 石材 第3節 消波工 3.1 消波工の定義 3.2 異形ブロックの発生 3.3 異形ブロックの安定 3.4 消波工の特長 3.5 消波工の設計 3.6 施工、実施例 第4節 堤防と護岸 4.1 種類 4.2 位置 4.3 のり勾配 4.4 高さ 4.5 構造 4.6 例 第5節 突堤と離岸堤 5.1 概要 5.2 突堤 5.3 離岸堤 第6節 導流堤 6.1 河口閉塞 6.2 導流堤の機能 6.3 配置 6.4 構造と実例 第7節 養浜 7.1 概説 7.2 施工法の種類 7.3 計画上の注意事項 7.4 施工例 第8節 防潮水門 8.1 概説 8.2 計画上の基本事項 8.3 計画および設計指針 8.4 設計 第9節 特殊海岸工事 9.1 概説 9.2 海岸の排水工 9.3 水質の改良保全工 付表 索引 資料広告

道路公団編集  
土木学会発行

# 東名高速道路建設誌

最新刊



B5判 ■ 本文 1024 ページ ■ 写真 48 ページ  
(カラー 16 ページ) ■ 折込 2 枚 ■ 特上製豪華本・限定出版

総論 / 各論 / 資料編に分け高速道路の  
マニュアルとして記述

定価 11500 円 会員特価 9500 円 (〒 300 円)

## 東名高速道路建設誌を発行するにあたって

社団法人土木学会 会長 柳 沢 米 吉

東名高速道路 346.7km が全線開通してからほぼ 1 年、7 年の歳月と 3,425 億円の巨費をつぎ込んだこの大動脈は、39 年完成の名神高速道路と結ばれ、進展する日本経済の原動力としての機能を次第に果しつつある。

昭和 41 年 6 月、国土開発幹線自動車道建設法が成立し、公共投資の中では立遅れがとくにいちじるしかった幹線道路網の建設が決定、昭和 60 年までに 7,600 km を整備し、国土の普遍的な開発をはかることとされているが、名神、中央道、東名などで開発された技術の集積は、これらの計画を推進するうえで大きなエネルギーとなるであろう。

この建設誌にも見られるように、わが日本列島は常にきびしい気象条件にさらされ、急峻な地形と複雑な地盤構成をもち、技術上の問題点もきわめて多い。それらの条件に加えて用地取得の困難、行政区分の多様化、予算の枠など、大規模な公共事業を期限までに完成させるための苦労は、東名においても例外ではなかったようである。東名高速道路の実現のために払われたすべての関係者各位の御努力ならびに、勤務のかたわら、短期間にぼう大な資料を要領よくとりまとめられた執筆者各位の御熱意に対し深甚なる敬意を表する次第である。

この建設誌は、日本道路公団試験所の御厚意により、特別に再印刷の許可をうけて公刊したものであることを付記し、謝意を表するとともに、本建設誌に盛られた多くの教訓が今後建設されるであろう新しい高速道路の建設に際し、広く活用されることを念願してやまない次第である。

この建設誌は、会長序文にもありますように、きわめて限られた部数しか再印刷の許可を得ておりません。すでに出版した若戸橋調査報告書・工事報告書、工事報告黒部川第四発電所、工事報告・天草五橋、本州四国連絡橋技術調査報告書など、この種の出版物は比較的早い期間に全部品切れとなっている実績からみても、申込みは極力お早目をお願いします。本書も再版はできません。

郵便番号 160  
東京都新宿区四谷 1 丁目

電話 351-4131 (直)  
振替 東京 16828



土木学会